

学会録事

1. 日本藻類学会第30回大会報告

(1) 日本藻類学会第30回大会

上記大会を2006年3月26日-29日、大会会長野呂忠秀氏(鹿児島大学)のもと、鹿児島大学稲盛会館と工学部共通棟(鹿児島市)を会場に開催した。参加者224名、講演数142題(うち口頭発表は90題、展示発表は52題)に及んだ。

大会1日目は午後から鹿児島大学稲盛会館会議室にて、編集委員会と評議員会を開催した。大会2日目はポスターセッションを挟んで終日鹿児島大学工学部共通棟の2会場で口頭発表を行い、午後5時45分より稲盛会館ホールにて日本藻類学会総会を開催した。総会終了後、鹿児島大学郡元南食堂で懇親会を催した。大会3日目は午前中に口頭発表を行い、午後には口頭発表の終了後、公開シンポジウム「九州・沖縄の藻類と環境：藻類生態系の保全とさらなる利用を目指して」を日本藻類学会第30回大会実行委員会と鹿児島県藻場造成研究会のお世話により鹿児島大学稲盛会館ホールで開催した。4題の講演(「ラフィド藻 *Heterosigma akashiwo* 赤潮の発生メカニズム」(本城凡夫・鹿児島大学)、「絶滅危惧藻類の分布と保全」(吉田忠生・北海道大学)、「琉球列島産オキナワモズク・モズクの生態解明と栽培技術への応用」(当真武・(株)沖繩環境分析センター)、「ガラモ場構成種の変動と藻場造成への応用」(田中敏博・鹿児島県水産技術開発センター))があり、一般の方々も含め151名の参加があった。大会4日目にはエクスカージョンとして鹿児島県水産技術開発センターの見学などを行い、本大会を終えた。

鹿児島大会の開催にあたり、野呂忠秀大会会長をはじめ、大会実行委員会の寺田竜太氏、新村巖氏、田中敏博氏、和田実氏、島袋寛盛氏、井上真吾氏、外林純氏、山神まさよ氏、その他鹿児島大学の大学院生および学部学生諸子等、多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。

(2) 編集委員会・評議員会

3月26日午後3時から鹿児島大学稲盛会館会議室において、英文誌および和文誌の合同編集委員会を開催した。

和文誌について北山和文誌編集委員長より第53巻「藻類」および54巻「藻類」の編集状況に関する報告があった。2005年に発行された「藻類」53巻には9編の原著論文のほか、一般記事、学会プログラム等が掲載され、総頁数は260頁であった。54巻については、編集システム引継の不幸のため出版が遅れている旨の説明があった。

英文誌については奥田英文誌編集長から「Phycological Research」の2005年度、2006年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があった。2005年度は総頁数318頁、掲載論文数31編であったことが報告され、契約頁の超過とページチャージについて説明があった。2006年度については54巻1号に8編の掲載があり、54巻2号以降の掲載論文

として既に22編が受理されているという報告があった。また、2007年1月から石田健一郎氏を編集長とする新体制で雑誌の発行が行われることから、2006年7月1日以降に投稿される論文からは新体制で編集が行われる旨の案内があった。さらにBlackwell Publishing Asiaの松永理乃氏から同誌の出版、販売、引用状況等についての説明があった。

評議員会は編集委員会終了後、同会議室にて午後4時半より開催された。川井会長を議長に選出し、2006年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議した。その内容に関しては総会の項を参照されたい。

合同編集委員会・評議員会開催にあたっては野呂忠秀氏、寺田竜太氏に大変便宜をはかっていただいた。記してお礼申し上げます。

(3) 2006年度総会

3月27日の口頭発表終了後、午後5時45分より鹿児島大学稲盛会館ホールにて総会を開催した。川井会長の挨拶の後、北海道大学の木村泰三氏を議長に選出して総会の議事に入った。

[報告事項]

・庶務関係

(1) 会員状況(2006年3月現在)：名誉会員5名、普通会員822名(国内・一般599名、国内・学生93名、外国130名)、団体会員59名、賛助会員15名、国内購読0件。

(2) 2005年度事業報告 1) 日本藻類学会第29回大会・評議員会・総会(京都大学吉田南総合館北棟, 3月27日-30日)を開催, 2) 和文誌「藻類」53巻1-3号を発行, 3) 英文誌「Phycological Research」53巻1-4号を発行, 4) 第8回日本藻類学会論文賞(真山茂樹氏, 真山なぎさ氏, 石川依久子氏)の授与, および第9回日本藻類学会論文賞の選考, 5) 第1回日本藻類学会研究奨励賞(吉井幸恵氏)の授与, および第2回日本藻類学会研究奨励賞の選考, 6) アジア太平洋藻類学フォーラム(10月30日-11月4日, タイ)の開催, 7) 2005年度日本藻類学会秋季シンポジウム「藻類ゲノム: 生物資源・研究資源」(10月15日, 東京大学理学部, 「ナショナルバイオリソースプロジェクト「藻類」」との共催)及び「海藻と健康-特定保健用食品・食物繊維・免疫機能とフコイダンの生理活性-」(11月31日, 学士会館, 日本海藻協会・日本応用藻類学研究会との共催)の開催, 8) 第8回マリンバイオテクノロジー学会大会(5月28日-5月29日, 熊本県立大学)に協賛, 9) 英文誌「Phycological Research」次期編集長(石田健一郎氏, 2007年度より), 和文誌「藻類」次期編集委員長(北山太樹氏, 2006年度より)を選出, 10) 団体会員会費の改訂(15,000円→20,000円), 11) 会則の改訂(第3条4項の追加, 第9条の変更, 第12条付則の追加, 付則第1条・2条・5条の変更)および英文会則の策定, 13) 会費納入の

口座振替サービスの導入

・会計関係

(1)2006年度3月19日現在の2005年度会費納入率(雑誌発送会員を対象)は、普通会员(国内・一般)94.2%、普通会员(国内・学生)94.4%、普通会员(外国)94.0%賛助会員93.3%、団体会員71.2%であった。

(2)その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

・編集関係

(1)2005年度に発行した和文誌「藻類」第53巻は、総頁数260頁、内訳は原著論文9編、その他であった。また、54巻については、編集システム引継の不利のため出版が遅れている旨の説明があった。

(2)2005年度に発行した英文誌「Phycological Research」第53巻1-4号は、総頁数318、掲載論文数31編であった。また、54巻についても順調に編集作業が進んでいるとの報告があった。これらに関連した詳細については、前述の編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

[審議事項]

・庶務関係

(1)2006年度事業計画として以下の事項が承認された：1)日本藻類学会第30回大会・評議員会・総会(鹿児島大学工

学部3月26日-3月29日)の開催、2)第9回日本藻類学会論文賞の授与と第10回日本藻類学会論文賞の選考、3)第2回日本藻類学会研究奨励賞の授与と第3回日本藻類学会研究奨励賞の選考、4)和文誌「藻類」54巻1-3号の発行、5)英文誌「Phycological Research」54巻1-4号の発行、6)日本藻類学会会長選挙及び評議員選挙の実施、7)秋季シンポジウム(日本海藻協会との共催、海藻食の安全と健康への効能(仮題)、2006年11月)の開催、8)Techno-Ocean2006/19th JASNAOE Ocean Engineering Symposium(海洋の科学技術に関する国際コンベンション、神戸国際展示場、2006年10月18日-10月20日)への協賛、9)日本植物学会シンポジウム(絶滅危惧水生植物、車軸藻類の保全生物学をめざして、熊本大学、2006年9月14-9月16日)への後援

・会計関係

(1)2005年度一般会計決算報告および同監査報告(伊藤裕之会員、渡部雅博会員)は表1の通り承認された。

(2)2005年度山田幸雄博士記念事業特別会計の決算報告および同監査報告は表2の通り承認された。

(3)2005年度研究奨励賞事業特別会計の決算報告および同監査報告は表3の通り承認された。

(4) Proceedings of Algae 2002(藻類第52号特別号)会

表1. 2005年度一般会計決算(2005.1.1-2005.12.31)

収入(円)		支出(円)	
会費	5,465,000	英文誌経費	5,428,690
普通会员(国内・一般)	3,734,000	和文誌経費	2,267,773
(国内・学生)	205,000	編集費	300,000
(外国)	454,000	英文誌編集補助費	200,000
団体会員	742,000	和文誌編集補助費	100,000
賛助会員	330,000	庶務費	237,127
販売	358,050	事務用品費	60,551
定期購読	249,300	会議費	37,400
バックナンバー	108,750	通信印刷費	92,230
和文誌別刷・超過頁代	232,300	諸雑費	46,946
受取利息	84	研究奨励賞事業費	2,200,000
和文誌複写使用料	5,821	大会補助費	120,000
英文誌版權還付金	211,107	APPF 補助費	100,000
寄付金	200,000	秋季シンポジウム補助費	20,000
		Proceedings of Algae 2002 出版補助費	484,432
		口座振替サービス導入経費	13,545
		自然史学会連合分担金	20,000
		日本分類学会連合分担金	0*
小計	6,472,362	小計	11,191,567
前年度繰越金	14,676,432	次年度繰越金	9,957,227
合計	21,148,794	合計	21,148,794

計の決算報告および同監査報告は表4の通り承認された。

(5)2006年度一般会計, 山田幸男博士記念事業特別会計, および研究奨励賞事業特別会計の予算は表5, 表6および表7の通り承認された。

・その他

(1)日本藻類学会第31回大会の日程(2007年3月24日-26日, 神戸大学理学部)および第32回大会の開催地(東京海洋大学)が承認された。

[日本藻類学会論文賞授与]

第9回日本藻類学会論文賞受賞者の発表および授与が行われた。これは2004年から2005年にかけて出版された英文

誌「Phycological Research」vol.52(4), vol.53(1)-(3)の中から, 規定により審査員の投票によって選ばれ, 総会前日に開催された合同編集委員会および評議員会で了承されたものである。今回は下記の論文が選ばれ, 論文の著者にそれぞれ賞状が授与された。

Hideaki Sasaki, Akio Murakami, Hiroshi Kawai

Phycological Research 53(2): 85-92 (2005)

Inorganic ion compositions in the Ulvophyceae and the Rhodophyceae, with special reference to sulfuric acid ion accumulations.

表2. 2005年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算(2005.1.1-2005.12.31)

収入(円)		支出(円)	
受取利息	433	論文賞用雑費	2,993
貸付返済*	200,000		
小計	200,433	小計	2,993
前年度繰越金	2,398,844	次年度繰越金	2,596,284
合計	2,599,277	合計	2,599,277

*2002年度に Proceedings of Algae 2002 の活動費として貸付

表3. 2005年度研究奨励賞事業特別基金会計決算(2005.1.1-2005.12.31)

収入(円)		支出(円)	
寄付金	2,200,000	奨励賞賞金	100,000
受取利息	10		
小計	2,200,010	小計	100,000
前年度繰越金	0	次年度繰越金	2,100,010
合計	2,200,010	合計	2,200,010

表4. Proceedings of Algae 2002(藻類第52号特別号)会計決算

収入(円)		支出(円)	
投稿料金, 別刷代金, 販売代金	1,336,153	印刷費	1,573,635
四国銀行	662,733	通信費	126,530
福井銀行	35,340	編集補助費	120,000
三井住友(神戸)	3,500	諸雑費	420
郵便(高知)	324,980	山田基金への返済金	200,000
郵便(福井)	3,000		
現金	306,600		
山田基金からの借入金	200,000		
一般会計からの補助金	484,432		
小計	2,020,585	小計	2,020,585

日本藻類学会2005年度決算報告に対し記名捺印する。2006年3月22日

会長 川井 浩史 印

会計幹事 本多 大輔 印

決算書が適正であることを認める。

2006年3月22日

会計監事 渡部 雅博 印

伊藤 裕之 印

表 5. 2006 年度一般会計予算 (2006.1.1-2006.12.31)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
会費	5,662,000	英文誌経費	5,800,000
普通会員 (国内・一般)	3,528,000	和文誌経費	1,820,000
(国内・学生)	250,000	53 巻 3 号	645,000
(外国)	434,000	54 巻 1 号	645,000
団体会員	1,060,000	54 巻 2 号	530,000
賛助会員	390,000	編集費	300,000
販売代金	300,000	英文誌編集補助費	200,000
定期購読	250,000	和文誌編集補助費	100,000
バックナンバー	50,000	庶務費	290,000
別刷代・超過頁代	200,000	事務用品費	50,000
英文誌掲載料	60,000	会議費	40,000
広告代	300,000	通信印刷費	150,000
受取利息	70	諸雑費	50,000
学術振興会刊行助成金	0	幹事旅費補助	30,000
和文誌還付金	5,000	大会補助費	120,000
英文誌還付金	200,000	秋季シンポジウム補助費	20,000
寄付金	20,000	口座振替サービス導入経費	30,000
		自然史学会連合分担金	20,000
		日本分類学会連合分担金	20,000
小計	6,747,070	小計	8,450,000
前年度繰越金	9,957,227	次年度繰越金	8,254,297
合計	16,704,297	合計	16,704,297

表 6. 2006 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算 (2006.1.1-2006.12.31)

収入 (円)		支出 (円)	
受取利息	400	論文賞用雑費	2,000
貸付返済	0		
小計	400	小計	2,000
前年度繰越金	2,596,284	次年度繰越金	2,594,684
合計	2,596,684	合計	2,596,684

表 7. 2006 年度研究奨励賞事業基金特別会計予算 (2006.1.1-2006.12.31)

収入 (円)		支出 (円)	
寄付金	0	奨励賞賞金	100,000
受取利息	20		
小計	20	小計	100,000
前年度繰越金	2,100,010	次年度繰越金	2,000,030
合計	2,100,030	合計	2,100,030

[日本藻類学会研究奨励賞授与]

第 2 回日本藻類学会研究奨励賞の発表と授与が行われた。同賞は藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰するものであり、推薦委員会で授賞候

補者が選ばれた後、評議員会で了承されたものである。今回は坂山英俊氏 (国立環境研究所) が選ばれ、賞状および副賞 (賞金 10 万円) が授与された。

2. 2006年日本藻類学会第2回持ち回り評議員会

平成18年6月14日から28日に第2回持ち回り評議員会を開催し、次期会長候補者推薦のための投票を行った。会長候補者推薦に関する申し合わせに従い、得票者上位7名につき学会事務局から推薦承諾の確認を行った(申し合わせでは上位5名であるものの、5位は3名が同票数であったため7名に伺った)。しかしながら条件を満たす数の承諾者が得られなかったため、申し合わせ事項に従い、評議員会としての候補者の推薦を見送った。

3. その他の報告

(1)平成18年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「学術定期刊行物」の「Phycological Research」への申請について

昨年日本学術振興会に申請した上記補助金研究成果公開促進費「学術定期刊行物」が採択され、平成18年度は200万円の助成が受けられることとなった。

学会・シンポジウム情報

2006年度秋季藻類シンポジウムのお知らせ

日本海藻協会主催、日本藻類学会・日本応用藻類学研究会共催 秋季藻類シンポジウム

「海藻と健康の展望—大学研究室からの報告」

日 時：2006年11月18日(土)

午前中 会社紹介

午後1時～5時 シンポジウム講演

場 所：東京海洋大学講義室(交流会：大学生協食堂)

講演予定(敬称略)

堀 貫治(広島大学大学院海洋生物資源化学研究室)

海藻資源からの糖鎖標的医薬素材・生化学素材・健康食品素材の開発

小川廣男(東京海洋大学大学院食品保全機能学講座食品物性学研究室)

現代の食事情における海藻の役割

田代有里(東京海洋大学大学院食品保全機能学講座食品物性学研究室)

食感とレオロジー

佐藤 実(東北大学大学院水産資源化学研究室)

海藻由来の健康機能性成分—タンパク質、脂質由来の健康機能性成分を中心にして—

2006年度「藻類談話会」のお知らせ

「藻類談話会」は藻類を研究材料とする幅広い分野の研究者の集まりで、西日本を中心に講演会や研究交流を行っています。今年度は以下の講演を企画しています。ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日 時：2006年11月11日(土) 13:00-17:00

場 所：神戸大学瀧川記念学術交流会館(神戸市灘区六甲台町1-1)

講演予定(敬称略)

菓子野康浩(兵庫県大院・生命理学)：

好冷性微細藻類の光環境応答機構

富谷朗子(海洋研究開発機構・地球内部変動研究センター)：

シアノバクテリアの初期進化：分子系統学・古生物学的アプローチ

神谷充伸(福井県大・生物資源)：

紅藻の無性生殖化に関する進化生物学的研究

鯉坂哲朗(京都大院・地球環境学堂)・上井進也(神戸大・内海域)：

東シナ海の流れ藻(アカモク)と日本各地のアカモク・シダモク種群の形態変異について

参加費：500円(通信費など)。談話会終了後、学内の大学生協LANS店で懇親会が予定されています(会費：一般3,000円、学生1,500円)。

談話会および懇親会の参加希望者は10月30日(月)までに電子メールかファックスで下記の宛先へお申し込みください(当日参加も可)。また最新情報は下記ホームページに適宜、掲示しますのでご覧ください。

会場への道順：阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅、阪神電車「御影」駅から、市バス36系統「鶴甲団地」行きに乗り、「神大文・理・農学部前」下車。または阪急電車「六甲」駅から北へ徒歩約10分。

参加申込・問合先

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町 京都大学大学院

人間・環境学研究所 相関環境学専攻 幡野恭子

TEL: 075-753-6854 FAX: 075-753-6694

e-mail: kyokohat@bioh.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

2006年度藻類談話会ホームページ: <http://biotech.nikkeibp.co.jp/100HP/> より「バイオ・基礎医学関係者の皆のホームページ」→「学会・研究会」の項目をお選び下さい。